

ポーランド留学記

昨年夏から今年の春まで、機能材料工学科3年(当時)の役田真悟君が、ポーランドの交流協定校であるクラクフ工業大学に短期留学しました。本学からクラクフ工業大学への留学は3人目です。今月は、役田君に体験記をつづってもらいました。

▼ 留学のきっかけ

私は、昨年の夏から約一年間ポーランドのクラクフ工業大学に留学しました。大学入学時から在学中に海外留学に挑戦してみたいという思いがありました。自分の専攻分野を含めた英語力の向上と異国の文化に触れてみたかったからです。今の時代、英語は何処でも学べると考えていたので、英語圏ではなく自分が興味を持った国へ行こうと決めていました。ポーランド留学の後押しを下されたのは、元北見工業大学教授の下村五三夫先生でした。一年時にロシア語を履修した時からの縁で、二、三年時も先生に師事していました。先生はロシア・東欧の事に詳しく、ポーランドの話も聞け、そのうち強い関心を持つようになり、留学を決意しました。



役田 真悟 (右)
機能材料工学科4年
スペイン人のルームメイトと

▼ ポーランド・クラクフ

クラクフは人口75万人を超えるポーランドで三番目に大きく、歴史ある都市として欧米では人気で、毎年多くの観光客が訪れます。例えるなら、ポーランドの京都といったところでしょうか。17世紀初頭、ワルシャワに遷都されるまでクラクフはポーランドの首都でした。ヴァヴェル城、聖マリア教会など歴史的建造物があり、世界遺産に登録されている建物が数多く存在します。第二次大戦中ドイツ軍が駐留していた経緯があり、多くが破壊されず昔のままの状態に残されています。



クラクフ工業大学

歴史地区を離れると、近代的な建物が並びハイパーマーケットと呼ばれる大きなショッピング施設が点在しています。また、鉄道、バス、トラムなどの交通網が発達しており、運賃が安く移動には困りません。歴史的建造物と近代的建造物がうまく調和しており非常に住みよい都市です。

▼ 日常生活

現地では大学の寮に住みました。同じフロアはヨーロッパ・西アジア（スペイン、ポルトガル、フランス、ドイツ、イタリア、ウクライナ、トルコ）からの留学生が多く、様々な話をしました。中でも考えさせられたのは宗教の事です。キリスト教、イスラム教の人と生活する中で自分がいかに無関心であったか気付かされるほど、彼らの生活には宗教が根付いていました。また、日本はヨーロッパの人にとってまだまだ馴染みが薄く未知の国のようで、留学当初、日本の何を伝えればよいか悩みました。ある日スペイン人の友人と一緒にアニメを観ようと誘ってくれました。今ヨーロッパでは日本のアニメが人気があるのです。アニメはもともと好きでしたが、そこから話題が広がり友人が増えるとは思ってもみませんでした。それからというもの、翻訳を頼まれる事も多かったです。留学生の中には、柔道、空手、合気道などの日本武道を習っている人もいました。小、中、高と柔道、剣道をやっていたこともあり共通の話題で盛り上がりました。



留学生仲間と



寮でのクリスマス

休日は、皆で街へ繰り出したり、近所のスーパーで食材を買ってパーティーを開いたりしました。そこでは各国の手料理が振舞われ、私もお寿司やカレーライスを作りました。初めて日本料理を食べる人もいて心配でしたが、おいしいと言ってお代わりをしてくれた時は感動しました。様々な国の人々と触れ合う中で、相手の国のことはもちろん、外から見た日本を知る良い機会になり、日本のことをより一層伝えられるよう努力出来たと思います。



ヴァヴェル城の畔

▼ ポーランド旅行

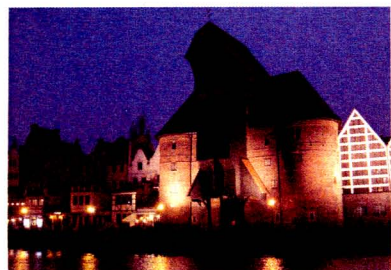
大学が休みの時に、ワルシャワの下村先生のご自宅に招かれ、数日間お世話になりました。中でも、キューリー夫人のラボやワルシャワ蜂起記念館が印象的でした。また、友人と共に行ったグダンスク（港町）、ザコパネ（山岳都市）では都市と素朴な自然が混在する不思議な雰囲気が味わえました。機会があればまた行きたいです。



聖マリア教会

▼ 学校生活

大学では、科学技術英語の講義を軸に自分の専攻分野を学びました。講義の体系としては、ポーランドの学生と一緒に授業を受け、分からない所を先生と一対一で議論するという感じでした。最初は全くと言ってよいほど、授業の内容が理解できなくて苦しい時期を過ごしましたが、次第に、科学技術英語の講義の成果が出始め、有意義に講義を受けられるようになりました。



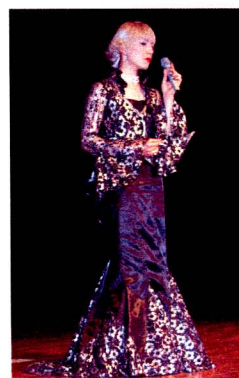
北部の町、グダンスクの造船所

▼ 最後に

短い時間ではありましたが、日本語以外で学び、様々な国の文化に触れ、多くの友人に出会えたことは、私の人生の中で貴重な財産となりました。ポーランドに留学して後悔はありません。最後に、留学にあたって私を支えてくれた方々、本当にありがとうございました。このニュースレターを読んで少しでも興味を持たれた方、ポーランド旅行・留学に挑戦してみたい方はぜひいかがでしょうか。きっと良い経験が出来るはずです。

おがわちからさんミニコンサート

@ International "C" Hour



7月のインターナショナルCアワーは、おがわちからさんをお呼びしてミニコンサートを開きました。男性でありながら、名だたる女性ボーカリストのナンバーをカバーし、衣装とメイクでも注目を浴びているおがわさんの歌声を聴きに、100名余りの人が講堂に集まりました。

留学生のために特別に組んでくださったこの日のプログラムは、映画「もののけ姫」のテーマソングに始まり、前半は「赤とんぼ」、「浜辺の唄」、「椰子の実」など日本の伝統的なメロディー。後半は、ミュージカルCatsより「Memory」、テレサ・テンの「香港～HongKong～」や、中国・韓国でもカバーされて大ヒットした「雪の華」など、国際色豊かなナンバーが続きました。楽しいトークと心に染み入るファルセットのステージの最後は「世界に一つだけの花」で締めくくられ、会場は大きな拍手でつまれました。



その後、リフレッシュルームでのティータイムにおがわさんが顔を出してくださいと、一緒に写真を撮りたい学生や市民の方々が次々におがわさんのもとへ。シャッターの音がようやく止むと次は、女装して歌うことについて参加者から質問がありました。「世間に対していつもは青をまとっていますが、自分の中には赤い部分もあり、それをコンサートで出すことができればいいと考えています。自分はこういう人間、と決めつけてしまうのでは面白くない。自分の中の色は一色ではないはずです。いろいろな色を発見していけばいいのでは」という言葉に、何人もの人がうなずいていました。また、声が低くて悩んでいるという学生を含め数人の男子学生が、おがわさんの指導で次々に初めての裏声を出してみても盛り上がる光景も見られました。

このコンサートの実現にお力をお貸しくださった皆様、そして何よりおがわさんご本人に、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

七夕 @ International "C" Hour

8月のインターナショナルCアワーは、前期試験最終日の8日、ちょうど北海道の七夕に開き、皆で短冊に願い事を書いて飾りました。日本語の上達や研究の成果といった学



生らしいものから、大切な人の幸せや世界の平和を願うもの、中には「彼女が欲しい!」「妻のダイエットが成功しますように」といった切実なものも混ざり、会場の笑いを誘っていました。



踊って寒さを吹き飛ばせ！～ほんち祭り～

7月17日、北見ほんち祭りの舞踊パレードに、本学留学生やチューターを中心とする40数名が参加しました。今年は大学を上げての参加ではなかったものの、いでたちは揃いの工大浴衣。工大のプラカードを掲げ、堂々と駅前商店街を踊り歩きました。



例年寒さに見舞われる舞踊パレードですが、今年は「過去3年間で一番寒かった」

と、毎年参加の共通講座講師、ボゼック先生。しかし、若い力のみなざる工大ダンサーズは、寒さを吹き飛ばす大きな声で掛け声をかけあい、元気に90分のパレードを終えました。参加した留学生の一人、モンゴル出身のソロンゴ・トゥメンデルゲルさんは、「きれいに踊りたかったので、一生懸命踊りました。全然疲れなかったです。すごく楽しかった」と満面の笑み。マテリアル工学科2年の宮原正樹さんや4年生の緒方雄太郎さんなど、列のしんがりを務めたチューターの日本人学生は、「掛け声が一体感を生んでいたと思います。インターナショナルな情熱がはじけていましたね」と、こちらも笑顔で語っていました。



お知らせ

* 次回のインターナショナル”C”アワーは、後期の授業初日、10月1日（木）の4時半から、総合研究棟3階のリフレッシュルームで行います。後期からまた数名、新しい留学生を迎えますので、自己紹介ゲームで楽しいひとときを過ごしたいと思います。どなたもお気軽にお越し下さい。

* 後期から、7名の新しい留学生を本学に迎えます。来月号で、顔と名前を紹介しますのでお楽しみに。

* 新型インフルエンザが流行っています。疑わしい症状が出た場合は、学外の医療機関を電話の上受診し、もしかかっていた場合は留学生は必ず国際交流センターに連絡してください。また、予防のため、学内の各所に消毒液を用意しています。うがい・手洗いと合わせて心がけてください。

修了おめでとう
ございます



买买堤 热孜万さん

(システム工学博士後期課程)

王 健さん

(情報システム工学 博士前期課程)

談 日華さん

(土木開発工学 博士前期課程)